

## 瑚龍院祥尚 の 「つれづれのまま」

### たわごと「皇紀・零戦」

---

「瑚龍院祥尚」(KT)は前筆名「ホアケボノチア」を改名した新筆名であり戒名でもある。以前にも紹介させていただいた。

私は今リハビリ生活をおくっている。  
5年前に脳卒中(小脳出血)を患い今もデイケア通いでのリハビリを週2回続けている。

今受けているデイケアのリハビリは

- ・20名位/回の利用者(介護認定者(脳梗塞の後遺症者が多そう))
- ・10名位/回のスタッフ(リハビリ指導と補助)

でおこなっている。

リハビリは3時間コース/回で1回に20名弱の利用者によって

- ・個別リハビリ(PT・STによる利用者一人一人に合ったマッサージ・ストレッチなど運動指導15分/回)
- ・集団体操(7~8名の利用者と1名のスタッフ約30分)
- ・運動器具(スポーツジムにあるようなエルゴメーター(自転車漕ぎ)など)の各自自由活用(5~10分/1器具)
- ・物理療法器具(接骨院にあるようなウオーターベッドなど)の各自自由活用(5~10分/1器具)

のような内容である。

リハビリは身体機能の回復向上ならぬ低下防止が主目的であるが、コロナとは無関係にステイホームでグータラダラダラ生活をしている身には、生活にリズムをつけ息抜きにもなっていて認知機能の低下抑止にもなかなか良さそうだ。

このリハ中に、KJさんという先輩がおられて他の利用者の方から「お歳は？」。

と聞かれ「95歳」と

小生は「大正14年生まれですね」と。

そこでKJさん「KT(瑚龍院祥尚さんは?)」「こうき2600年生まれです」。

すかさず「昭和15年ですね」と

まわりの人「こうき?って何ですか?」

半可通の小生、知った風に恥ずかし気もなく「”こうき”は「皇紀」と書いて……………」と説明を始をめた。

皇紀2600年は大きな節目にあたる記念の年で、国を挙げて沢山の行事が行われたようだ

提灯行列・唄・兵器の開発・等々

〈零式戦闘機'零戦'の零もその一つで2600の'0'〉即ち現代の車の年式と同じ)

皇紀2600年生まれの人に

将棋の'ひふみん'こと加藤一二三九段がいる。

加藤九段は、藤井聡太棋聖王位二冠が現われるまで二十代前から六十年余りに亘って'神武以来の天才'と言われてきた。

馬電には皇紀2600年生まれの人が他にもいた。学齢は違っていたが化学の専門家のSさんは、たまに皇紀2600年を口にしてるのが思い出せる。

リハビリの利用者とスタッフさん用に年号・西暦・皇紀の関連が分かるように次のような行列の直交表を作って渡した。

年譜比較・換算・年齢							
	R	H	S	T	M	C	K
	令和	平成	昭和	大正	明治	西暦	皇紀
	1~	1~31	1~64	1~15	1868~ 1912	1~	1~
西暦期間	2019~	1989~ 2019	1926~ 1889	1912~ 1926		1~	-661~
						BC661	1
					1	c	c+660
					m		
					1868	2528	
					45	m+1867	m+2527
					t+44		
				1		1912	2572
				t	59	t+1911	t+2571
					s+58		
			1	15		1926	2586
			s	s+14	73	s+1925	s+2585
					122		
			15	29	h+121	1940	2600
		1	64	78		1989	2649
		h	h+63	h+77	152	h+1988	h+2648
					r+151		
	1	31	94	108	153	2019	2679
	r	r+30	r+93	r+107		r+2018	r+2678
	2	32	95	109		2020	2680
令和2年 年齢 年齢	2	32-h	95-s	109-t	154-m		

(誕生日後)

ある日リハビリに零戦のキャップを被っていった。  
脳卒中発症の少し前に航空自衛隊浜松基地の公開でブルーインパルス  
のデモンストレーションを見に行つて土産に買ったものである  
そしたらPTのNさんがお世辞に褒めてくれた。

”零戦”(0式戦闘機)(2600年・三菱重工)と共に名をはせた”隼”は(1式戦闘機)  
(1601年・中島飛行機)だったとのことである。  
PTのNさんには’九七式戦闘機’(2597年三菱重工と中島飛行機)もあつたと  
教えていただいた。

リハビリのスタッフの方によく  
「お願いします。」とか「ありがとうございます。」「ありがとうございました。」  
と言われる。

「お願いします。」とか「ありがとうございます。」「ありがとうございました。」はリハを受け補助してもらったりしているこちらが言う言葉であるがスタッフから言われると返って恐縮する。しかし、心地良い。

褒められたり お礼をいわれるのはたとえお世辞であっても子供でなく幾つになっても嬉しいものである。

なのに、家族には褒めたり アリガトウ となかなか言えない。  
愛情がないのか！決してそうではないのだが照れなのかもしれない。  
シテヤッテイルと思っているから相手に何かシテモラッテモ「アリガトウ」を言わない。ということもあるかもしれない。  
シテモラッテ当然と思っているから「お願いします」も言わない。  
ということもあるかもしれない。  
サセテいただいている。とかシテいただいている。とか思えば素直な言葉ができるのであろう。

馬電が中島飛行機の部品工場の跡地で当時の建物の一部を今も利用していることに何か縁を感じる。

殊に本館は馬電のランドマークでありシンボルである。  
需要文化財的価値ある建物として大切に保存して欲しい。  
いつまでも”菱の実だより”の主演・トップ写真を続けてほしい。

世には変えなくてはならないものが多いが、変えてはならないものもある。

今年 令和2年は皇紀2080年。  
西暦2020年・平成32年・昭和95年・大正109年・明治153年でもある。

父親が生まれたのが明治25年で今居れば129歳。  
急逝したのが昭和39年。  
東京五輪があった年である。  
小生は国立競技場で開会式をこの目で見た。  
新幹線も開通したばかりなのに、初めて乗った。  
はやかった、それまで東京-名古屋は'東海7号'という東海道線の夜行で一晩かけていたのが 朝出て昼前には名古屋より1時間位先の岐阜に着いていた。  
あれからもじき45年になる。

母親が生まれたのが明治30年で今居れば124歳。  
亡くなったのが昭和46年で49年が過ぎた。  
純白正絹の死装束を用意していたそうだ。  
末っ子だった小生も今や皇紀ならぬ後期高齢者から末期高齢者入りして成人過ぎた孫まで居る。

蛇足

本拙文はとりとめもなく極く細い糸紡ぎ繋ぎで、'風が吹けば桶屋が儲かるみたい'で訳が分からなくなっているうえに少し自慢話が入っていてみっともないし恥ずかしい。自慢話は鼻もちならんし人聞きが悪い。

この回おしまい